

# ささしまライブ地区の交通まちづくり人材育成の今後の展開

- ◆ 観光コンテンツワークショップ: ささしま地区の現状を知り、コンテンツを開発。
- ◆ コンテンツ実施: ワークショップをもとに冬イベントを社会実験的に運営。
- ◆ デジタルコンテンツの開発: 周遊型コンテンツを制作、実証実験へ向けての土台作成。
- ◆ 共創シンポジウム: 広く交通まちづくりの意義を発信。
- ◆ 調査事業: ささしま地区の人流データを解析。
- ◆ 共創コンテンツ発信: 全国的な認知度を高める。

本事業を通じて、ささしまライブ地区の「ラストワンマイル交通まちづくり」における基盤形成が進み、交通と観光を結びつける新たなストーリーが生まれた。

ワークショップや社会実験を通じて、地域の回遊性向上を図る実践的な取り組みが行われ、シンポジウムやイベント開催を通じて広く発信を進めていった。

今後は、集めたデータを活用して戦略的にシンポジウムやイベント企画等を継続して行い、共創コンテンツ発信としてHPやSNSを使用していくことで周りへの認知を広げつつ、新たに制作デジタルコンテンツを活用してさらに盛り上げていく。

認知が広がることにより、興味を持った人や企業を巻き込み、人材を増やしてワークショップを通して育成、育成した人材がさらに実践力を高め、交通まちづくりの推進役として継続的に活動できる環境を整えていく。

そのために、アドバンス講座の開設やインターンシップの導入、認定制度の構築など、より体系的な育成プログラムを展開し、企業・行政との連携を強化しながら持続可能な交通まちづくりを目指す。

### ① 交通まちづくりアドバンス講座の開設

既存のワークショップ受講者やシンポジウム等により新たに興味を持ってくれた人を対象に、継続的なワークショップやより高度な実践的スキルを習得する講座を開設。

- 交通データ分析の深化（人流解析、経済効果の測定）
- 企画立案力向上（実際の地域課題を題材としたプロジェクトベース学習）
- デジタルツール活用（デジタルコンテンツ企画・運用）
- 企業・行政との連携方法（協賛・共創の進め方）
- 実践演習（実際のイベント企画・運営）

### ② 交通まちづくり実践インターンシップ

企業や行政、観光団体と連携し、コーディネータが実践経験を積める場を提供。

- シャトルバスの運行改善提案・実施
- 交通と連携したイベントの運営補助
- 企業とのコラボレーション企画の立案・実行
- 中川運河クルーズの新コンテンツ開発

### ③ コーディネータ認定制度の導入

一定の研修・実践を修了した人材を「ささしまライブ交通まちづくりコーディネータ」として認定。

認定者は以下の役割を担う。

- 地域交通イベントの継続運営
- 名古屋駅～ささしまライブ～中川運河間の人流促進施策の企画・実施
- 他地域との連携（都市間交流や全国発信）
- 若手育成（次世代のコーディネータ育成）

#### ④ 企業・行政・大学との共創ラボ設立

交通まちづくりの持続可能な発展を目指し、企業・行政・大学と連携した共創ラボを設立。

研究テーマ例：

- 交通と商業活性化の関係性
- 最新デジタル技術を活用した交通まちづくりの可能性
- ウォーカブルなまちづくり
- 歩いてささしまに来たくなる魅力作り
- エコロジカルな移動手段の導入（電動モビリティ、シェアサイクル等）

#### ⑤ 広域連携とシンポジウムの継続開催

毎年シンポジウムを開催し、交通まちづくりの成果を発表。

他都市の事例とも比較し、新たな発展の方向性を模索。

企業・行政・市民が共に参加し、実践的なディスカッションの場を提供。

## まとめ

- 交通まちづくりの実践者を育成し、ささしまライブ地区の回遊性をさらに向上させる。
- 企業・行政・大学との連携を強化し、持続可能な交通まちづくりのエコシステムを構築。
- 全国的な事例として、他都市、他地域との協力関係を築く。

これらの取り組みを通じて、ささしまライブ地区の「ラストワンマイル交通を支えるためのまちづくりコーディネーター人材育成事業」が次世代にわたって継続・発展していくことを目指す。